



84

第84期中間報告書 平成22年4月1日—平成22年9月30日

TBS
HOLDINGS



代表取締役社長

財津 敬三

CONTENTS

目次

○株主の皆様へ	2
○中間連結事業概況	4
○中間連結財務諸表（要旨）	10
○企業集団の概略	11
○企業集団および当社の現況	12
○ネットワーク	14
○株主メモ	16

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より当社ならびに当社グループへ格段のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに当社第84期上半期の中間報告書を取りまとめましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当中間期の国内経済は、一部業種で業績の回復が見られましたが、雇用情勢の厳しさやデフレ傾向に大きな改善は見られませんでした。また、円高や株価の低迷も重なり、景気の下振れ懸念が強まりましたが、当社グループでは、各々の社が収益の確保に全力を挙げました。

まず、グループ中核のテレビ放送につきましては、株式会社TBSテレビが、当中間期においても、バラエティの「ひみつの嵐ちゃん!」「ぴったんこカン・カン」「中居正広の金曜日のスマたちへ」、ドラマの「新参者」、報道・情報の「サンデーモーニング」「情報7days ニュースキャスター」などの番組で安定した視聴率を獲得し、引き続き視聴者の皆様方のご支持をいただくことができました。また、サッカー・ワールドカップ南アフリカ大会決勝トーナメントでは、「日本対パラグアイ」の熱戦をお伝えすることができ、TBSの放送番組において史上最高の視聴率を記録いたしました。視聴率向上のための取り組みはなお途上にあります。今後も新たな企画にチャレンジし、皆様に親しまれ愛される番組をより多くお届けできるよう努めてま

います。

ラジオ放送では、8月の個人聴取率調査において9年と2ヶ月間、55期連続トップを記録いたしました。ラジオ業界をとりまく環境も一段と厳しさを増しておりますが、当中間期は営業面でも高聴取率を反映した実績を収めることができました。

映像・文化事業では、映画「ハナミズキ」が大ヒットして「映画のTBS」としてのブランドを維持することができ、展覧会についても、「大哺乳類展～陸のなかまたち」「大哺乳類展～海のなかまたち」が、生物多様性条約締約国会議（COP10）の日本開催年に相応しい企画となって大盛況でした。

一方、不動産事業も引き続き、安定した収益の確保に貢献しております。

企業の社会的責任に関する取り組みにつきましては、環境に配慮した「グリーン電力」を積極的に使用しておりますが、今後とも地球温暖化の防止に貢献してまいります。また、当社グループは、当中間期におきまして、「TBS未来への生命（いのち）募金」をスタートさせ、未来を担う子供たちの生命（いのち）を中心に、地球上の生命や緑、生物多様性などすべての生命を救い、未来に繋いでいこうと決意しました。

楽天株式会社が保有する当社株式の買取請求への対応につきましては、裁判所における価格決定の手

続きを踏まえまして、引き続き適切に対処してまいります。

当社は、将来にわたる企業環境の大きな変化にも柔軟に対応しようと、2014年度に至る中期経営計画を「グループ経営計画2014」と定めて、「連結売上高4,000億円・連結売上高営業利益率7%」の目標の実現に向けて努力を続けているところです。また、グループが一丸となりまして「TBS活性化推進プロジェクト」に取り組み、順次それらを実行に移しておりますが、その一環として赤坂サカスで今夏開催した「夏サカス2010 赤坂ビッグバン」では、145万人もの来場者をお迎えすることができ、私どもとしましては、このグループの力を再確認することができました。今後は、このグループ力を一段と活かしながら番組・コンテンツ制作の強化を図り、「グループ経営計画2014」の達成と企業価値ならびに株主の皆様共同の利益の最大化を目指してまいります。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき3円、支払開始日は12月10日とさせていただきます。

株主の皆様方におかれましては、当社ならびに当社グループに対し、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

BUSINESS OVERVIEW

当中間期における日本経済は、景気回復の動きが踊り場に差しかかるなど、総じて厳しい局面が続きました。デフレや雇用の低迷が引き続きマイナス要因として働いたほか、国際金融市場の動揺や米国経済の先行きに対する懸念、それに伴う円高傾向も企業マインドを冷やす一因となりました。

放送業界におきましても、厳しい経営環境を受けて企業が広告費抑制の傾向を崩さず、テレビ・ラジオの広告市況は依然として低調に推移しました。

このような状況のもとで、当社グループは、基幹となるテレビ・ラジオ番組のさらなる強化に努める一方、「赤坂サカス」でのイベント活動を通じて事業収入・営業収入の積み上げを図るなど、広範囲な事業分野での収益確保に努めました。

しかし、当中間期における連結の業績は、売上高が1,668億1千5百万円で前年同期に比べ5.1%の減収となりました。また、利益面におきましても、経常利益は27億2千2百万円で前年同期に比べ21.4%の減益となり、中間純損失は26億9千2百万円で、投資有価証券評価損77億6千3百万円を計上したことが大きく影響して、前年同期に比べ26億1百万円悪化しました。

BROADCASTING

当中間期における放送事業の売上高は、965億3千3百万円で前年同期に比べ5.8%の減収となり、営業損失は14億6千3百万円で、前年同期に比べ25億2千5百万円改善しました。



新参者

TELEVISION

テレビ部門は平成21年4月1日、会社分割により株式会社TBSテレビが免許とともに承継しております。

地上波テレビのタイムセールスにおきましては、視聴率苦戦の影響もあって4月改編のレギュラー番組セールスが振るわず、売上を落としました。また、単発番組におきましても、サッカー「FIFAワールドカップ」が売上に大きく寄与したものの、「世界陸上」があった前年同期の実績には届きませんでした。

スポットセールスにおきましては、東京地区におけるCM投下量が、前年度後半から回復基調に向かい、前年同期の実績を上回ることができました。

業種別では、「食品」「エンタテインメント・趣味」「自動車・輸送機器」「総合電気機器」といった分野が堅調



IRIS－アイリス－



ぴったんこカン・カン



歸國

な伸びを示しています。

編成面におきましては、4月から、平日19時台のニュースをバラエティ枠に戻すなど、視聴率の改善に努めました。

しかし、当中間期においては成果をあげるまでに至らず、ゴールデンタイム（19～22時）が前年同期より0.2ポイント下回る9.3%、プライムタイム（19～23時）も同じく0.1ポイント下回る9.6%、全日帯は前年同期と同じ6.4%という厳しい結果になりました。

このような状況のなか、バラエティ部門では、「ひみつの嵐ちゃん!」「ぴったんこカン・カン」「中居正広の金曜日のスマたちへ」が、引き続き好調を維持しています。また、「紳助社長のプロデュース大作戦!」や深夜帯からゴールデンタイムに移行した「飛び出せ!科学くん」も、放送回数を重ねるにつれて番組内容が充

実して、ファンを増やしつつあります。

ドラマ部門では、人気作家・東野圭吾原作の「新参者」が、平均15.2%の視聴率を記録するとともに、内容的にも高い評価を得ました。韓国ドラマとして、TBSが初めて地上波のゴールデンタイムに編成した「IRIS－アイリス－」は、平均7.3%と期待した視聴率には達しなかったものの、BSやCSでの放送に加えて、DVDやイベント開催など多方面にわたる展開で収益に貢献し、新たなビジネススキームとしての可能性を確認させてくれました。

10月編成では、「ROOKIES」「MR.BRAIN」などのヒット作を生み出した土曜20時のドラマ枠に変えて、金曜深夜に、若手プロデューサーや演出家、脚本家の登竜門となる「Friday Break（フライデー・ブレイク）」というドラマ枠を新設し、既存のスタイルを打ち破る



NEWS23クロス



紳助社長のプロデュース大作戦！



飛び出せ！科学くん



Nスタ

斬新なドラマ作りに挑戦しています。

単発企画では、劇作家・倉本 聰の舞台作品をドラマ化した終戦ドラマスペシャル「歸國（きこく）」を放送し、60余年ぶりに祖国に帰った英霊たちの目を通じて現代社会を鋭く問い、14.7%という視聴率を獲得しました。

報道部門では、4月編成で、平日23時台に大型ニュース番組を復活させて、「NEWS23クロス」としてリニューアルしました。また、夕方の「Nスタ」も着実に支持を集めはじめ、徐々に視聴率を伸ばしています。

スポーツ部門では、日本代表の健闘もあって、「FIFAワールドカップ 日本vsパラグアイ」が、TBSテレビ史上最高となる57.3%の視聴率を記録しました。このほか、「ドイツvsイングランド」が18.9%、準々決勝の「アルゼンチンvsドイツ」も23.9%の視聴率

をマークするなど、当社のワールドカップ編成は大きな成果をあげました。

BSデジタル放送は、本年9月末に受信機出荷総数が8,500万台に到達するなど、順調に普及しています。このような状況を追い風に、持分法適用会社の株式会社BS-TBSは、クオリティの高い番組を供給しつつコストコントロールにも努め、単年度黒字の継続を目指し、積極的な営業活動を展開しております。



荒川強啓 デイ・キャッチ！



Dig



らじこん

ラジオ部門は平成13年10月1日、会社分割により株式会社TBSラジオ&コミュニケーションズが免許とともに承継しております。

タイムセールスにおきましては、好調な聴取率を背景に、中高年層をターゲットにしたCMや繁忙期の交通情報セールス、プロ野球ナイターなどで売上を伸ばし、前年同期並みの実績を確保しました。

スポットセールスにおきましては、通信販売事業などの広告主を中心に長尺CMなどが好調だったほか、大手コンビニエンスストアとの商品共同開発に絡んだ大型出稿なども寄与して、前年同期の実績を上回ることができました。

編成面では、昨年4月にスタートした平日午後のワイド番組「小島慶子 キラ☆キラ」が、引き続き同時間帯の聴取率トップを守るなど、好調を維持しています。このほか、「森本毅郎・スタンバイ!」「大沢悠里のゆうゆうワイド」や、当中間期に放送1,000回を迎えた「土曜ワイドラジオTOKYO 永六輔その新世界」、同じく

放送4,000回を迎えた「荒川強啓 デイ・キャッチ!」といったTBSラジオの看板番組も、根強いファンの支持を得ています。また、本年4月にスタートした平日夜のニュース探究ラジオ「Dig (ディグ)」は、男女とも40代のリスナーを中心に支持者を増やしています。

首都圏の個人聴取率調査では、平成13年8月期の調査以降55期連続、9年2ヶ月にわたってトップを堅持し、首都圏ラジオのリーディングカンパニーの座を不動のものにしています。

さらに、首都圏・関西圏のラジオ局と共同で、平成22年3月から番組のインターネットでの無料配信を試験的に開始するとともに、より安定的に配信を継続するための施策の実現にも取り組んでいます。

放送関連事業では、各種音声コンテンツの有料配信サイト「らじこん」を立ち上げるなど、新たな分野の開拓によりソフト事業関連の売上は伸びました。しかし、住宅展示場事業の収入が減少したため、トータルでは前年同期の実績に届きませんでした。

PROGRAM SALES AND CULTURAL EVENTS



赤坂大歌舞伎



熊川哲也Kバレエカンパニー
眠れる森の美女
©木本忍



カポディモンテ美術館展



大哺乳類展 海のなかまたち

映像・文化事業の売上高は、619億7千9百万円で前年同期に比べ4.6%の減収となり、営業損失は4億4千4百万円で、前年同期に比べ33億9千1百万円の減少となりました。

イベントの分野では、ブロードウェイ・ミュージカル「ドリームガールズ」や中村勘三郎「赤坂大歌舞伎」などが盛況でした。また、アカデミー賞映画や人気テレビドラマのその後のストーリーを舞台化した「おくりびと」と「タンブリング」も好評でした。倉本 聡 作・演出の「帰国（きこく）」は、テレビドラマ化も話題を呼び、順調に観客動員数を伸ばしました。根強い人気に支えられている熊川哲也Kバレエカンパニーは、「眠れる森の美女」「New Pieces」の両公演でファンを魅了しました。このほか、上海万博で注目を集めた中国発のスーパーエンタテインメントショー「CHA～茶～」や恒例の「ウルトラマンフェスティバル」、コンサート関係では、西本智実「宿命～ロミオとジュリエット～」「キャロル・キング&ジェームス・テイラー」などが良好な成績を収めています。展覧会関係では、国立科学博物館で開催された「大哺乳類展 陸のなかまたち・海のなかまたち」が70万人以上を動員したほか、「カポディモンテ美術館展」「ポーラ美術館コレクション展」も、各地で好評を博しました。

映像・ソフトビジネスの分野では、8月公開の劇場映

画「ハナミズキ」が興行収入27億円を突破するヒットとなっています。また、「けいおん!!」は、前作に続き、テレビアニメシリーズとして圧倒的な人気を誇っています。DVDでは、「特上カバチ!!」「ヤマトナデシコ七変化」「ブラッディ・マンデイ シーズン2」などのドラマ作品が好調です。このほか、韓国ドラマ「IRIS－アイリス－」の日本での放送・DVD化権等に出資し、地上波のゴールデンタイムで全18話を放送したほか、DVD・ブルーレイディスクの販売などによっても収益をあげています。

番組販売ビジネスでは、番組のコンセプトなどを販売する海外向けのフォーマット・ビジネスが好調で、「SASUKE」と「風雲！たけし城」は、120を超える国と地域に販売されています。このほか、「ブレインサバイバー」「100げっちゅ～」といったクイズのフォーマットも人気を呼んでいます。

ペイテレビビジネスでは、動画配信サービスの「TBSオンデマンド」が、4月から地上波ドラマの見逃し配信サービスをスタートさせたほか、携帯電話やスマートフォンなどモバイル端末向けの配信も本格化させて、大幅に売上を伸ばしています。また、CS放送の「TBSチャンネル」と「TBSニュースバード」は、民放キー局で初めて「ひかりTV」に参入するなど、積極経営で契約世帯数を順調に増やしています。



けいおん!!
©かきふらい 芳文社／桜高軽音部

ライセンス・ショッピングビジネスでは、「けいおん!!」が、雑貨・フィギュアなど600種類以上の関連商品を企画・販売しました。また、ドラマ「新参者」では、劇中に登場する番組とのコラボ商品「薄皮醤油たい焼」が人気を呼んで、100万個を売上げています。このほか、映画「ハナミズキ」のノベライズ本も、32万部の売上を記録しました。5月と7月に放送したショッピング特別番組は、ネットワーク各局への番組販売が増加したこともプラス要因となって、順調に売上を伸ばしています。

デジタルビジネスでは、従来からのパソコンや携帯電話に加えて、スマートフォンが急速に普及するなど環境が大きく変化し、ユーザーがコンテンツに接する機会も多様化しています。このような急激な変化に対応するため、「TBSオンデマンド」の自社サイト開設やスマートフォン向けアプリケーションの開発なども推進しています。さらに、広告主に向けてデジタル展開を積極的に提案するなど、新たな収益源の開拓にも取り組んでいます。

平成20年7月から連結を開始したスタイリングライフグループは、個人消費の低迷が続く厳しい経営環境のなか、持続的な成長を果たすべくグループ再編に取り組み、収益力の再強化を図っています。



IRIS-アイリス-

不動産事業

REAL ESTATE BUSINESS

不動産事業の売上高は、83億2百万円で前年同期に比べ0.5%の増収となり、営業利益は37億9千9百万円で同2.7%の減益となりました。

不動産事業では、開業2周年を迎えた「赤坂サカス」が、各種の興行や「Sacas広場」での様々なイベントを通じて、文化・エンタテインメントの発信地としての人気を確立する一方、住宅棟などの新規成約も堅調に推移しています。



※従来、事業区分につきましては、「放送事業」「映像・文化事業」「不動産事業」「その他事業」の4事業に区分しておりましたが、当事業年度から「放送事業」「映像・文化事業」「不動産事業」の3事業区分に変更いたしました。

なお、対前年同期比の増減については、「その他事業」の事業規模が小さいため、影響がありません。

中間連結財務諸表（要旨）

中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

区 分	当中間期 (平成22年9月30日現在)	前中間期 (平成21年9月30日現在) (ご参考)	前 期 (平成22 年3月31日現在) (ご参考)
(資産の部)			
流動資産	173,920	165,173	174,141
固定資産	409,297	450,110	453,541
有形固定資産	223,126	229,307	226,535
無形固定資産	34,046	34,748	33,506
投資その他の資産	152,125	186,053	193,498
資産合計	583,217	615,283	627,683
(負債の部)			
流動負債	119,456	125,217	114,469
固定負債	129,660	136,416	156,136
負債合計	249,117	261,634	270,606
(純資産の部)			
株主資本	324,872	330,220	327,995
資本金	54,986	54,986	54,986
資本剰余金	60,254	60,254	60,254
利益剰余金	209,724	215,067	212,844
自己株式	△94	△88	△91
評価・換算差額等	△681	13,204	18,257
少数株主持分	9,909	10,225	10,823
純資産合計	334,100	353,649	357,076
負債・純資産合計	583,217	615,283	627,683

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

区 分	当中間期 (自 平成22年4月 1 日 至 平成22年9月30日)	前中間期 (自 平成21年4月 1 日 至 平成21年9月30日) (ご参考)	前 期 (自 平成21年4月 1 日 至 平成22年3月31日) (ご参考)
売上高	166,815	175,709	351,262
売上原価	120,640	127,576	257,988
売上総利益	46,174	48,133	93,273
販売費及び一般管理費	44,286	45,199	89,929
営業利益	1,888	2,933	3,343
営業外収益	2,085	1,645	3,075
営業外費用	1,250	1,116	2,516
経常利益	2,722	3,462	3,902
特別利益	1,571	—	71
特別損失	8,338	463	2,199
税金等調整前中間(当期)純利益	△4,044	2,998	1,773
法人税、住民税及び事業税	1,213	1,477	2,749
法人税等調整額	△1,729	2,159	1,300
少数株主利益(△損失)	△836	△548	37
中間(当期)純利益(△損失)	△2,692	△90	△2,313

中間連結キャッシュ・フロー計算書

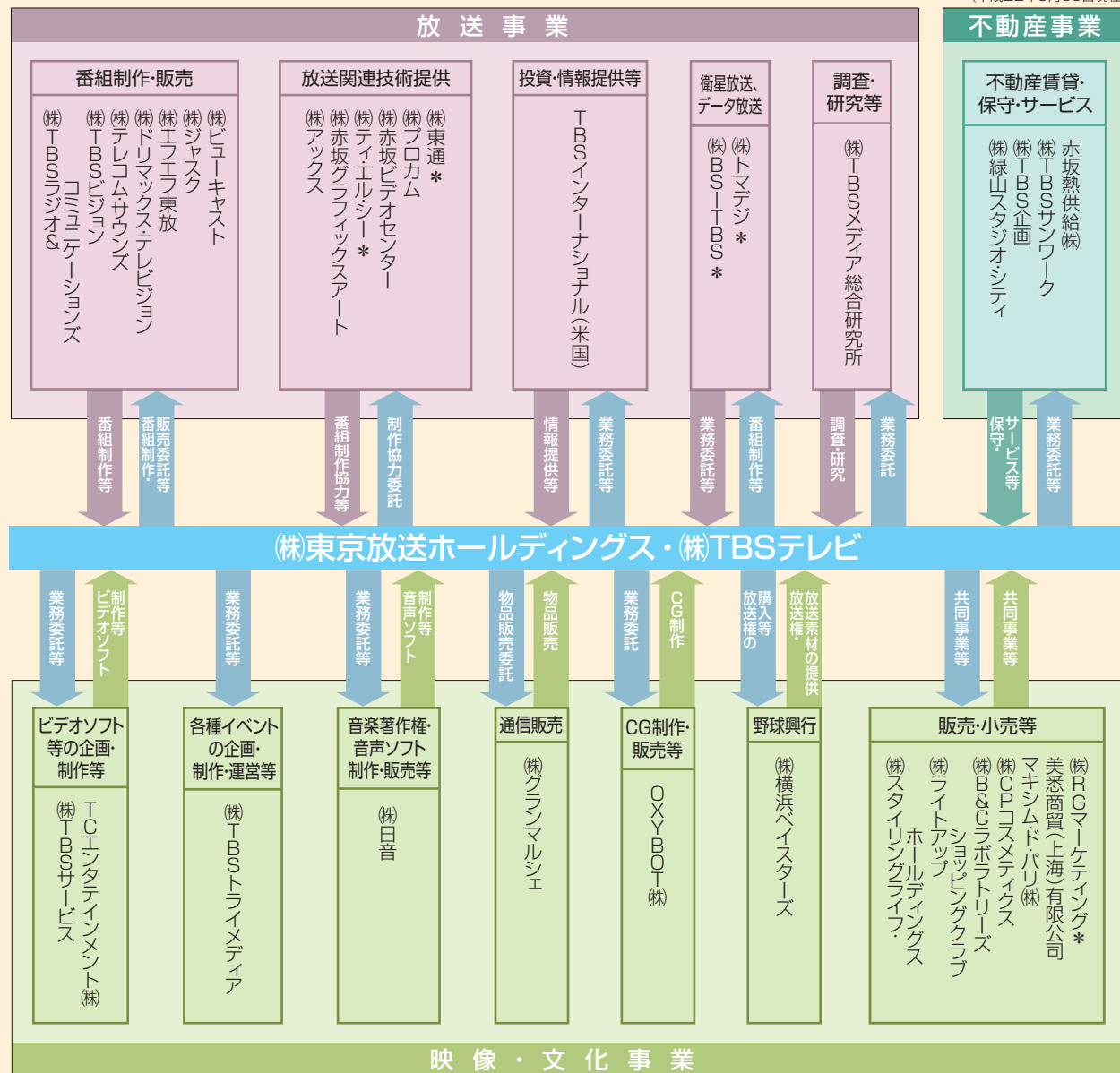
（単位：百万円）

区 分	当中間期 (自 平成22年4月 1 日 至 平成22年9月30日)	前中間期 (自 平成21年4月 1 日 至 平成21年9月30日)	前 期 (自 平成21年4月 1 日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,133	13,007	18,646
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,409	△6,780	△13,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,147	△243	△1,379
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	9,332	5,940	3,678
現金及び現金同等物の期首残高	52,249	48,571	48,571
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	61,582	54,512	52,249

TBSグループ

— 企業集団の概略 —

(平成22年9月30日現在)



*は持分法適用会社であります。

企業集団および当社の現況

会社の概要

(平成22年9月30日現在)

創 立	昭和26年5月10日（設立登記5月17日）
商 号	株式会社 東京放送ホールディングス （略称 TBSホールディングス）
英文表示	TOKYO BROADCASTING SYSTEM HOLDINGS, INC.
本 社	東京都港区赤坂五丁目3番6号（〒107-8006）
資 本 金	54,986,892,896円
事業内容	認定放送持株会社 傘下会社およびグループの経営管理、不動産事業 ○テレビ放送 JORX-TV 6チャンネル 地上デジタル放送 JORX-DTV 22チャンネル （リモコン 6チャンネル） ○ラジオ放送 JOKR 954kHz

企業集団の従業員の状況

(平成22年9月30日現在)

就業人員数	5,358名
-------	--------

企業集団の主要な事業内容

(平成22年9月30日現在)

当社グループは、テレビ・ラジオの放送および映像・音声ソフトの制作・販売、文化事業を主に、これらに附帯する保守、サービスなどを行っております。

当中間期における事業は、次のとおりであります。

事業区分	事業内容
放送事業	・放送関連事業 放送、番組制作、映像技術、美術制作、 コンピュータグラフィックス、音声技術、 照明技術、カメラ取材、CATV投資、 映像投資、調査・研究等
映像・文化事業	・各種催物、野球興行、 ビデオソフト等の企画・制作事業 映像・音声ソフト制作・販売事業、各種催物、 番組販売、ビデオソフト制作・販売、 音楽ソフト企画・制作、野球興行、 雑貨小売、通信販売、化粧品製造販売、 外食・洋菓子製造販売等
不動産事業	・不動産賃貸、保守およびサービス事業 スタジオ管理、冷暖房、駐車場管理、 機材リース、保険代理、不動産賃貸等

株式の状況

(平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	190,434,968株
株主数	12,449名

大株主およびその持株数（上位10名）

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数 (株)	出 資 比 率 (%)
楽 天 株 式 会 社	37,770,700	19.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 （退職給付信託口・株式会社電通口）	9,310,500	4.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	8,374,100	4.39
日本生命保険相互会社	7,821,735	4.10
株 式 会 社 毎 日 放 送	6,166,000	3.23
株式会社三井住友銀行	5,745,267	3.01
三 井 不 動 産 株 式 会 社	5,713,728	3.00
三 井 物 産 株 式 会 社	4,288,000	2.25
株式会社ビックカメラ	4,190,000	2.20
株 式 会 社 講 談 社	3,771,200	1.98

(注1) 出資比率は、自己株式（28,789株）を控除して計算しております。

(注2) 出資比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

(注3) 当中間期末の外国人等の議決権に占める電波法上の割合は5.02%であります。

(注4) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（退職給付信託口・株式会社電通口）の持株数9,310,500株は、株式会社電通が保有する当社株式を退職給付信託に提出したものであります。

その他株式に関する重要な事項

当社は、平成20年12月16日開催の当社臨時株主総会決議にもとづき、平成21年4月1日を効力発生日として、当社のテレビ放送事業および映像・文化事業を当社完全子会社である株式会社TBSテレビに承継させる吸収分割を行うとともに、認定放送持株会社へ移行いたしました。平成21年3月31日、上記臨時株主総会において、この吸収分割契約承認の議案に反対した楽天株式会社ほか1名の当社株主より、会社法第785条第1項にもとづく当社株式の買取請求がありました。その買取請求株式数は37,770,800株で、平成21年3月31日現在の当社発行済株式総数の19.83%に当たります。

上記の問題につきましては、現在、裁判所において、楽天株式会社からの買取請求に関する価格決定の手続きがなお進行中ですが、本年3月5日に東京地方裁判所において、当社の主張に沿う形で買取価格を1株当たり1,294円とする決定がなされたことを受けて、同社の全対象株式について当該価格での仮払いを同社に対して実行いたしました。これは、買取価格が裁判所の手続で最終的に確定するまでの間の法定利息年6分の当社負担を避ける措置ですが、本件株式買取請求につきましては、今後裁判所における手続がすべて完了し、当社が支払うべき請求対象株式の買取代金総額の最終的な確定を待って、適切に対処してまいります。これにともない株式の異動が発生いたします。

取締役・監査役および執行役員

(平成22年9月30日現在)

代表取締役 会長	井 上 弘
代表取締役 社長	財 津 敬 三
常務取締役	衣 笠 幸 雄
取締役相談役	若林 貴世志
取締役	武 田 信 二
取締役	神 成 尚 史
取締役	石 原 俊 爾
取締役	平 本 和 生
取締役	児 玉 守 弘
取締役	山 本 雅 弘
取締役	檜 田 松 瑩
取締役	高 嶋 達 佳
取締役	朝比奈 豊
常勤監査役	小 川 邦 雄
常勤監査役	小 田 忠 明
監査役	岡部 敬一郎
監査役	田 中 健 生
監査役	明 石 康
執行役員	元 田 進
執行役員	田 代 冬 彦
執行役員	加 藤 嘉 一
執行役員	桑波田 景信

(注1) 取締役のうち、山本雅弘、檜田松瑩、高嶋達佳、朝比奈 豊の4氏は、社外取締役であります。
(注2) 監査役のうち、岡部敬一郎、田中健生、明石 康の3氏は、社外監査役であります。

NETWORK

TBSテレビとTBS ラジオ&コミュニケーションズ

(TBS R&C) をキーステーションとする

テレビネットワークJNN（全国28局加盟）と

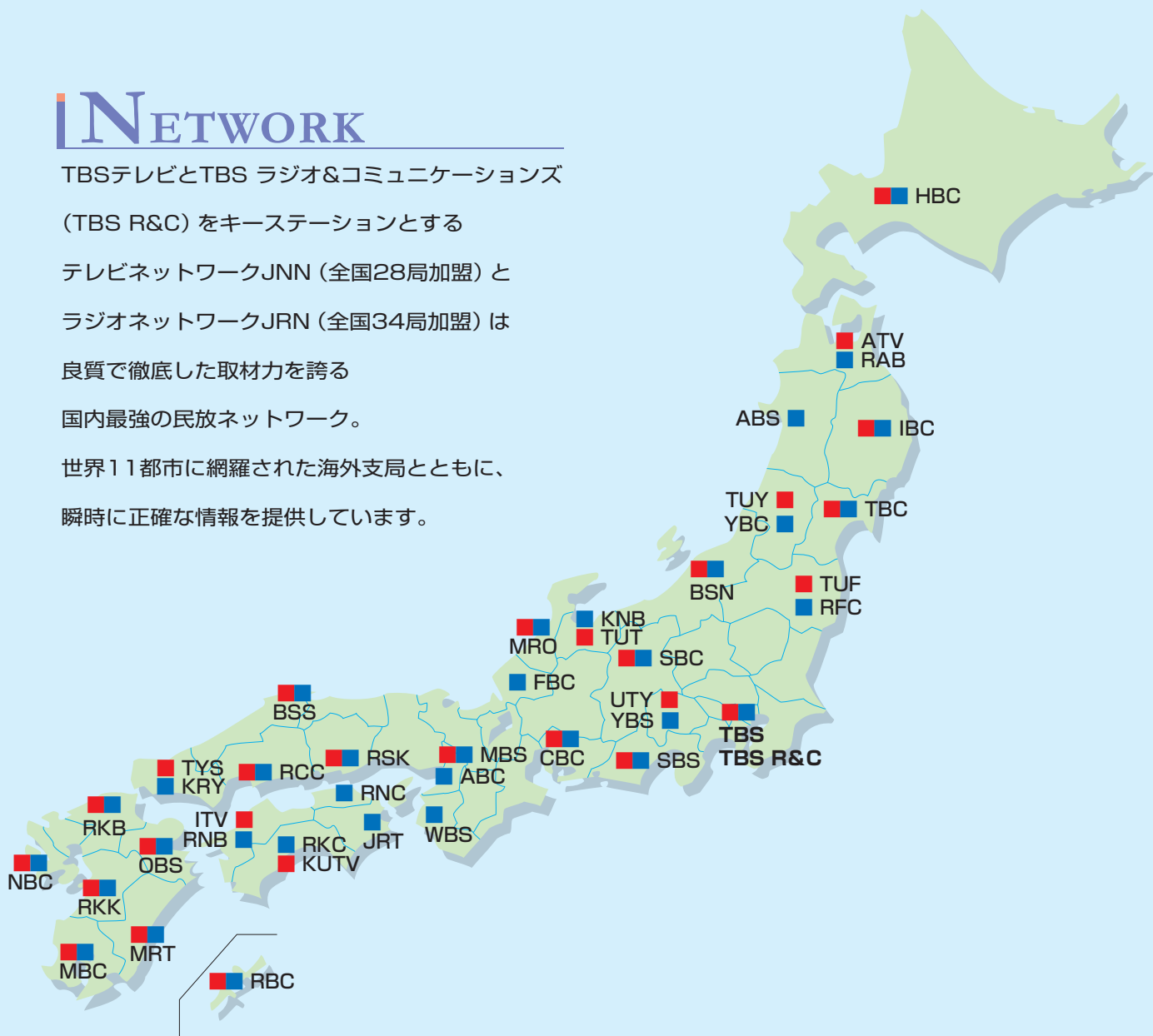
ラジオネットワークJRN（全国34局加盟）は

良質で徹底した取材力を誇る

国内最強の民放ネットワーク。

世界11都市に網羅された海外支局とともに、

瞬時に正確な情報を提供しています。



海外支局網



(Japan News Network)

HBC 北海道放送	SBC 信越放送	RKB RKB毎日放送
ATV 青森テレビ	SBS 静岡放送	NBC 長崎放送
IBC アイビーシー群衆	CBC 中部日本放送	RKK 熊本放送
TBC 東北放送	MBS 毎日放送	OBS 大分放送
TUY テレビユー山形	RCC 中国放送	MRT 宮崎放送
TUF テレビユー福島	BSS 山陰放送	MBC 南日本放送
UTY テレビ山梨	TYS テレビ山口	RBC 琉球放送
BSN 新潟放送	RSK 山陽放送	TBS TBSテレビ
TUT チューリップテレビ	KUTV テレビ高知	
MRO 北陸放送	ITV あいテレビ	



(Japan Radio Network)

HBC 北海道放送	YBS 山梨放送	RNB 南海放送
RAB 青森放送	SBS 静岡放送	RKC 高知放送
ABS 秋田放送	CBC 中部日本放送	RKB RKB毎日放送
IBC アイビーシー群衆	MBS 毎日放送	NBC 長崎放送
YBC 山形放送	ABC 朝日放送	OBS 大分放送
TBC 東北放送	WBS 和歌山放送	RKK 熊本放送
RFC ラジオ福島	BSS 山陰放送	MRT 宮崎放送
BSN 新潟放送	RSK 山陽放送	MBC 南日本放送
SBC 信越放送	RCC 中国放送	RBC 琉球放送
KNB 北日本放送	KRY 山口放送	TBS TBSラジオ
MRO 北陸放送	JRT 四国放送	R&C コミュニケーション
FBC 福井放送	RNC 西日本放送	

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

外国人等の株主名簿
への記載の制限 放送法の規定にもとづき、当社定款には次の規定があります。
定款第8条 当会社は、次の各号に掲げる者（以下、「外国人等」という）のうち第1号から第3号までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が当会社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法の規定に従い、外国人等の取得した株式について、株主名簿に記載又は記録することを拒むことができる。
1.日本の国籍を有しない人
2.外国政府又はその代表者
3.外国の法人又は団体
4.前3号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711（通話料無料）

上場金融商品取引所 東京証券取引所

単元未満株式の買取
1単元の株式数 100株
買 取 手 数 料 無料

公 告 の 方 法 東京都において発行する「毎日新聞」に掲載する。

インターネット
ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.tbsholdings.co.jp/>

【株式に関するお手続きについて】

○ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○ 郵送物等の 発送と返戻に関するご照会 ○ 支払期間経過後の 配当金に関するご照会 ○ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711（通話料無料）
○ 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○ 特別口座から一般口座への振替請求 ○ 単元未満株式の買取請求 ○ 住所・氏名等のご変更 ○ 特別口座の残高照会 ○ 配当金の受領方法の指定（＊）	特 別 口 座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711（通話料無料）
○ 郵送物等の 発送と返戻に関するご照会 ○ 支払期間経過後の 配当金に関するご照会 ○ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株 主 名 簿 管 理 人	[手続き書類のご請求方法] ○ 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479（通話料無料） ○ インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

（＊）特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

【ご 注 意】

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



TBS
HOLDINGS

株式会社 東京放送ホールディングス

〒107-8006 東京都港区赤坂五丁目3番6号
TEL.03-3746-1111（代表）